

日本語要約・臨床解説

小帯切除中の音楽は、不安や術後痛を和らげるか。

レーザー小帯切除で音楽群の不安と初期術後痛が低い傾向。患者が選べる快適さの工夫として読む。

歯周治療 / ランダム化比較試験

成人40人、音楽あり・なし各20人。

研究デザインと対象の違いを踏まえて解釈。

01 研究の要点

目的

上顎小帯の半導体レーザー切除中に、標準化した器楽曲を聴くことが不安、ストレス、痛みに影響するかを調べた。

方法

全身的に健康な成人40人を、音楽あり・なしの2群へ割り付けた。不安尺度、ストレス尺度、術後1・3・7日の疼痛と生理指標を評価した。

結果

音楽群では術後不安と1か月時のストレス尺度が低く、特に術後1・3日の疼痛も低かった。血圧や脈拍にも低下が報告された。

結論

音楽は小手術時の快適さを支える補助手段となる可能性がある。ただし改善の大きさや他処置での再現性には追加確認が必要。

読み取れること

- 対象はレーザーによる上顎小帯切除。
- 抄録には平均差と信頼区間が示されていない。
- 音楽の受け止め方には個人差がある。

02 臨床で考える

音楽を導入するなら、患者の好みと意思疎通を両立できるか。

1. 希望する患者が音楽を選べるようにし、無音を好む場合も尊重する。
2. 術者の声や中止の合図が届く音量と方法にし、コミュニケーションが妨げられないか確認する。
3. 試行時は本人の快適さを簡潔に尋ね、処置内容や不安の程度とともに振り返る。

音楽は局所麻酔や必要な術後疼痛管理を置き換えるものではない。

臨床で深く読む

原著の報告と編集上の解釈を区別した解説です。AI編集・歯科医師未監修。

器楽曲は不安・初期疼痛の補助的な工夫として検討できるが、改善量は抄録では分からない。

健康な成人のレーザー上顎小帯切除術で、標準化された器楽曲を聴いた群は不安や初期疼痛が低かった。患者の快適さを考える小規模試験として読めるが、麻酔や疼痛管理の代替となることを試した研究ではない。

対象

全身的に健康で上顎小帯切除術を要する成人40人。音楽群20人、対照群20人のRCT。

介入・評価対象

ダイオードレーザーによる手術中に標準化された器楽曲を聴く。

比較

聴覚刺激を加えずに手術を実施。

評価項目

CORAH-MDASによる不安、PSS-10によるストレス、VAS疼痛、心拍・血圧・酸素飽和度。主副次の指定は抄録にない。

追跡・評価時点

不安は術前・直後・1週・2週、疼痛は術後1・3・7日、ストレスは開始時と1か月に評価。

結果の大きさを、診療の視点で読む

不安・ストレス

原著の報告：音楽群は術後のCORAH-MDASと1か月のPSS-10が有意に低かった。抄録に群別平均、差、信頼区間の記載はない。

臨床での読み方：差の方向は確認できるが、患者が実感できる改善量や尺度上の大きさは判断できない。

疼痛と生理指標

原著の報告：疼痛低下はとくに術後1・3日にみられ、血圧と脈拍も低かった。多くが音楽に好意的な経験と今後の希望を報告した。

臨床での読み方：「多く」を具体的な割合に置き換えない。酸素飽和度は測定されたが、改善の結果は抄録では示されていない。

目の前の患者に、どこまで重なるか

研究に近い条件：健康な成人の小規模な歯周外科処置で、本人の好みと快適さを確認しながら聴覚環境を検討する場面。

未確定の範囲：小児、他の手術、患者が選んだ曲、異なる音量や再生方法でも同じ効果が出るかは未確定。

標準曲と好みの曲は別の介入

この試験は標準化された器楽曲を使った。音楽の有無と曲の選び方の効果を混同しない。

複数の尺度と時点

不安・ストレス・疼痛の評価時点が異なる。すべてを術直後の効果としてまとめず、群別の値と解析方法を原著で確認する。

自院で検討するなら

- ・ 音楽を取り入れた症例を振り返るなら、本人の希望、使用した音源と時点、不安と疼痛の評価を分けて記録する。
- ・ 「楽になった」という感想だけで鎮痛効果を決めず、研究と同じ術後評価時点の情報があるかを確認する。

患者さんへの説明例

この手術を受けた成人の小さな研究では、器楽曲を聴いた方は不安や術後早期の痛みが低い結果でした。ただし、どのくらい楽になるかは抄録だけでは分かりません。音楽の好みもありますので、聴きたいかどうかを確認するための参考にし、痛みへの対応の代わりにはしません。

患者の希望と治療条件に合わせ、歯科医師が内容を検討するための研究説明例です。個別の治療結果を保証するものではありません。

同僚と考える問い

音楽を好まない患者も含め、術中の希望、術後の不安、術後1・3日の疼痛をそれぞれ分けて評価する運用にできますか？

コメントする：<https://nakanoyuyadental.com/articles/music-frenectomy-anxiety#comments>

臨床解説の確認資料：原文抄録（PubMed）（Methods / Results / Conclusions（質的研究は主題・解釈を含む））
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/42663239/>

研究の限界・解釈上の注意

- ・ 40人の小規模で、特定の処置に限った試験。
- ・ 音楽の有無を本人に隠せず、期待が主観評価に影響し得る。
- ・ 効果の具体的な大きさは抄録から算出できない。
- ・ 原文抄録を確認。全文の方法・補足資料は未確認。

03 原著・資料の範囲

Effect of music listening on anxiety, stress, and pain during frenectomy: a randomized controlled trial.

Uçan Yarkaç F, Özkan Şen D, Demir M, Gönül M, Tunçdemir AR.

Quintessence international (Berlin, Germany : 1985) | 原著公開日：2026-08-28

PMID : 42663239 | DOI : 10.3290/j.qi.b7085701

PubMedで原文抄録 : <https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/42663239/>

出版社の原著 : <https://doi.org/10.3290/j.qi.b7085701>

資料確認・作成日 : 2026-09-15

収録範囲 : 既存の日本語要約と編集上の臨床解説。原著全文の翻訳ではありません。確認範囲と未確認事項は上記の限界欄に記載しています。

免責事項 : AI作成・歯科医師による監修未実施。医療者の学習用資料であり、個別患者への診断・治療指示ではありません。臨床判断に用いる前に原著と最新の診療指針を確認してください。